

文化祭で「雨降って地固まる」経験を

生徒の皆さん、おはようございます。校長の博田です。本当に暑い夏季休業期間でしたが、皆さんは有意義に過ごしましたか。今日は皆さんにこれから始まる第２学期の学校生活を送る上でのヒントについて、お話ししたいと思います。キーワードは、「雨」です。

今年の夏、皆さんはとてつもない猛暑と突然の雷雨など不安定な天候に大変な思いをしたのではないのでしょうか。あと２週間で皆さんが楽しみにしている翔陽祭が始まります。各クラスや部活動などの団体の準備は順調に進んでいますか。クラスでの出し物やステージでの発表に向けて、それぞれの団体で決めた役割分担に沿って皆さんは準備を進めていることと思います。文化祭に限らず、クラスで何か一つのことに取り組もうとするときには、クラス全員の協力がないと上手く進みません。一部の人がわがままを言ったり、クラスの決定を守らなかったりすると、楽しいはずの学校行事が嫌なものになってしまいます。

人はそれぞれ違う価値観や判断基準を持っています。ですから、それぞれが自分の価値観や判断基準を相手に押し付けたのでは、物事はまとまりませんし、バラバラのままです。だからこそ、皆さんがクラスでやっているように話し合うことが重要になります。話し合いのなかで、相手の考えをよく聞いて、時には質問したり確認したりしますし、自分の考えも相手に理解してもらうように話します。それぞれの意見が違うのは当たり前のことで、話し合うことによってそれぞれがお互いの違いを認め合い、合意点を探していきます。

先ほど突然の雷雨という話をしましたが、皆さんは「雨降って地固まる」ということわざを知っていますか。ことわざの直接的な意味は、「雨が降ることによって、地面が固くなる」ということですが、まずこの直接的な意味を理解してもらうのは、今の時代では大変難しいことだと思います。なぜなら、皆さんは登下校の際は舗装された道路を通っていますし、学校でも舗装されていないのはグラウンドくらいのもので、雨が降ればグラウンドは固くなるどころか柔らかくなって、完全に乾くまではグラウンドでの活動ができなくなります。完全に乾いたとしても、地面が固まるというより雨が降る前の状態と同じではないかと思うでしょう。

では「雨降って地固まる」ということわざは、どういう意味なのでしょう。分かりやすい例を挙げれば、皆さんがアサガオやミニトマト、ヒマワリの栽培をするために植木鉢に種をまいて苗を植えた後にジョウロで水をまくと、植木鉢にいっぱいだった水が締まって少なくなったような体験を思い浮かべることができるでしょう。「雨降って地固まる」ということわざの直接的な意味は、そのようなことを指しています。

私たちは水不足のときでもなければ、雨に降られるのを好みません。傘をさしての行動は不便ですし、屋外のスポーツなどができなくなります。「雨降って地固まる」ということわざの本当の意味は、「人々は雨を嫌がるものであるが、雨が降った後は以前より土地がしまっていて硬くなる」「人が嫌がる雨だけれど、雨が降った後は、土地が固く締まり、前よりも良い状態になる」という意味で、もめごとなど悪いことが起こった後は、互いに理解し合い、かえって良い状態になることの例えなのです。

文化祭まであと２週間です。これまで以上の人間関係とクラスの協力体制を作り上げ、皆さん一人ひとりの人生で記憶に残る文化祭を作り上げてください。もしも自分たちのクラスが（土地が）固まっていないと感じているのなら、遅くはありません。すぐに雨を降らせて、つまりそれぞれの思いを伝えて話し合い、共通する目標を定め、クラスの全員が約束事を守り、地面が固まるまで力を出し合う経験をしてみましょう。文化祭で皆さんの協力が目に見えるような発表を期待しています。

以上で第２学期始業式での私の話を終わります。